
ルーチカ！

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

「ああ。ルーチカちゃん。かわいいなア」

狂介は、ルーチカがドッチボールをしているのを遠くで眺めながら、ため息をつく。

「もう小学校卒業かア。やだなア。中学別々だもんなア。ちょうど、学区が分かれてしまっただよなア」

狂介は悲しい。小学校を卒業するのは別に悲しくないけど、ルーチカと別れるのがたまらなく悲しい。

ドッチボールをしているルーチカの胸が揺れる。

「ああ。揺れてる。切ない」

とか何とか言ってるうちに、バレンタインデーが来てしまった！

「狂介くん。これ」

「えっ」

何とルーチカが狂介にチョコを渡した。

「えっマジ？ いいのかい？」

「あだし、狂介のこと、ずっと好きだったんだ。もう卒業しちゃうし。思い切って」

女子たちが後ろでひゅーひゅーと囃し立てる。

狂介は感動して涙が出てきた。

「うっ。うれしい。オレ、12年生きてきて一番うれしいかも」

そんな狂介を見ていたら、ルーチカも涙が出てきた。ルーチカだって本当は狂介と同じ中学に行きたい。

そんな時、後ろから、あいつがやって来た。

「げ」

「ご、ゴリ子」

ゴリ子は完全に怒っていた。うほっほと叫んで自分の胸を叩いた。ゴリラみたい。

ゴリ子も狂介のことが好きなのだ。

狂介からチョコを奪うと床に叩きつけた。

「な、何すんだゴリ子！」

「うほうほうほ！」

ゴリ子は狂介を持ち上げて窓から放り投げた。

「わあああああああああああああ」

たぶん、骨折するだろう。三階だから。

ルーチカに歩みよるゴリ子。

ルーチカは怖くて怖くてシヨンベンをちびってる。

「ゴリ子、落ち着け。ゴリ子」

ゴリ子はルーチカも持ち上げて窓から放り投げた。

「きゃあああああああああああ」

もちろん、骨折だろう。

「うほうほうほうほ！！！！」

ゴリ子は机に乗って胸をどンドン叩いた。

女子たちは抗議する。

「ちょっとーゴリ子。いくら何でもひどいんじゃない？」

「そうよ。そうよ。ルーチカ、徹夜してチョコ作ったんだよ？」

ゴリ子は包みを差し出した。

「あ。あんたもチョコ作ったんだ」

「うほ」

まア仕方ないかアゴリ子も狂介好きだし恋はバトルだしそれにしてもゴリ子狂介と同じ中学行くのよねえ狂介かいわそうに、と思いつながら、ロリ華は包みを開けた。

「ば、バナナ????」

「うほ」

ロリ華は叫んだ。

「これ、あんたが食べたいものでしょう？」

「うほ？」

「バレンタインはバナナじゃないよ。チョコだよ！」

「うほほ????」

その頃、校庭ではえらいことになっていた。
狂介がおお向けになり、そのうえにルーチカがうつ伏せで覆い被
さっていたのだ。

「ああん。ルーチカちゃん」

「狂介えええ」

共に骨折してるので動けない。

悲しいような嬉しいような状態！

キスしようと思えばできる状態！

でも骨が折れてるので痛くてそれどころじゃない状態！

ルーチカ！ 何とかしろ！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6517j/>

ルーチカ！

2011年1月16日03時25分発行